「がん医療」に関するアンケート　リサーチプラン

1. 調査の背景と目的

大阪府では第二期がん対策推進計画（平成25年度～平成29年度）を策定し、府民をがんから守り、健康な生活を送れる社会の実現をめざし、さまざまな取組みを実施している。しかしながら、府民のがんによる死亡率は全国に比して高く、また、がん検診受診率は全国最低水準で推移している状況にある。本調査では、内閣府実施の「がん対策に関する世論調査」を基にして、府民のがんやがん検診に対する意識や行動を把握し、第三期がん対策推進計画策定の資料とする。

1. 調査仮説

仮説１　がん検診受診者と未受診者とでは、がんに対する認識に差がある

仮説２　年代によってがん医療（緩和ケア・医療用麻薬）の認識に差がある

仮説３　働き方によって、がんの治療をしながら仕事を続けられる環境かどうかの認識に差がある

1. 調査対象　国勢調査結果（平成２７年）に基づいた、性・年代・居住地（４地域）の割合で割り付けた、２０歳以上の大阪府民1,000サンプル
2. 質問項目

予備質問　4問（性別・年代・居住地都道府県・居住地市町村）

本質問２６問

1. がんについての印象（こわいと思うか）(SA)
2. 【こわい人】その理由(MA)
3. がんについて知っている内容(MA)
4. ５がんの検診頻度（表組）（年１～ない）表組（SA）
5. 【ある人】検診の受診機会(５がん別表組)（職場・個人など）表組(MA)
6. 【未受診の人】理由　(MA)
7. 精密検査の受診(SA)
8. 【受診しない人】精密検査の不受診理由(MA)
9. 普段の「がん」についての情報源(MA)
10. がんと診断された場合の利用したい情報源(MA)
11. 拠点病院の相談センターで知りたい情報(MA)
12. がんと診断されたときの病院選びの重視項目(MA)
13. 「緩和ケア」の認知度(SA)
14. 「緩和ケア」の開始時期(SA)
15. 医療用麻薬の認知度印象(MA)
16. 医療麻薬の使用意向(SA)
17. がんと診断された場合に話せる相手(MA)
18. がんの治療等をしながら働き続けられると思うか(SA)
19. 【思わない人】その最も大きな理由(SA)
20. がん対策として大阪府に注力してほしいもの(MA)
21. がん拠点診療制度の認知度(SA)
22. 本人または家族のり患状況(SA)
23. 就業形態(SA)
24. 勤務形態(SA)
25. 業種(SA)
26. 健康保険の種類(SA)
27. 検証方法

仮説１　Q４×Q１、Q21、Q３（反応個数）

　　仮説２　性年代×Q13、Q14、Q16

　　仮説３　Ｑ23、Ｑ24×Ｑ18